坊さんは、さんぼうの助の言っていったのはこのことだなあと思い、あらかじめ用意して言いつけておいた五平という小僧に飼犬を

「五平今だぞ。」

と言って放たせた。おとふれ狐は、ばけの皮があらわれ、犬に追われて山に逃げ、最後にはかんこの疵をひって姿が見えなくなった。

他方さんぼうの助は、旅には出たものの、どうしても夢見が悪いので、京まで行かないで途中から引き返してきて、この話を聞いてびっくりした。

「何んともお礼の申し上げようがない。お